

特定非営利活動法人 冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク

2019(令和元)年度 事業報告書

(2019年6月1日～2020年5月31日)

○ 2019年度事業概要	・・・・・・・・・・p.2
◎ 事業計画に掲げた「重点的取り組み」の達成度評価について	・・・・・・・・・・p.3
1. 子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、それを広げる事業	・・・・・・・・・・p.4
2. 冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業	・・・・・・・・・・p.4
3. 地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業	・・・・・・・・・・p.5
4. 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業	・・・・・・・・・・p.5
5. 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業	・・・・・・・・・・p.5
6. プレーリーダーの養成に係る事業	・・・・・・・・・・p.6
7. 子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業	・・・・・・・・・・p.7
8. 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業	・・・・・・・・・・p.7
9. 組織運営について	・・・・・・・・・・p.12

※「冒険あそび場だより2019」（別添）と併せてご覧ください。



2019 年度事業概要

東日本大震災発生から 9 年目となる 2019 年度は、海岸公園冒険広場周辺でも「東部復興道路」や避難道路の完成でハード面の復興事業は一区切りを迎えた。集団移転跡地の利用事業も徐々にその姿が見えてくるようになるなか、多くが再開を遂げた施設を中心に、沿岸地域で連携しながら賑わいを生み出していこうとする動きも活発になってきている。一方、人口減少が著しい現地再建地域をはじめ、移転先も含めた暮らし・コミュニティの再生については、まだまだ課題が解消されない現状もある。

2019 年度、冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワークの事業は、昨年度再開した海岸公園冒険広場を中心に据えながら、仙台市・岩沼市近郊を中心とした沿岸地域で、巡回型の遊び場づくりを軸に展開した。引き続き、震災以降生まれた「新たなまち」と、津波被害からの再生途上にある「現地再建地域」の両方で、子どもの遊び場活動と交流サロン活動等を連携させて実施することで、子どもを中心に世代を越えた交流の場を生み出した。

指定管理者として運営する海岸公園冒険広場は、アクセス路の制限や台風 19 号も含めた天候不順などの逆境にも見舞われたが、再開から 2 年目にして一定の支持を得ることができており、冬季にも来園者の増加が顕著に見られた。

2 月からの新型コロナウイルス感染症拡大の局面では、海岸公園冒険広場で様々な利用制限を始めたのと合わせ、巡回型の遊び場も全て休止せざるをえなくなった。活動が制約される困難な状況下ではあるが、あらためて子どもの育ちの環境・遊び環境の課題が顕在化しているとも言える。2019 年度は、各自治体の子ども・子育て事業計画について意見募集の機会があったが、遊び環境の課題については、平時からしっかり伝え政策提言も行っていく必要性を感じている。なお、パブリックコメントの機会を利用して行なった宮城県や仙台市への提案については、多くが採用され遊び環境づくりの政策について進展が見られた。今後はその具体化につなげていきたい。

「仙台市子育てふれあいプラザ若林（のびすく若林）」の指定管理については、定着してきた屋外での企画をはじめ、子どもの遊びの重要性を伝えていく取り組みにさらに力を入れている。

◎ 事業計画に掲げた「重点的取り組み」の達成度評価について

2019 年度事業計画において掲げた6つの重点的取り組みについて、4 段階の達成度評価を行なった。定款に沿った事業区分に基づく「1. ～ 9.」の記載内容との対照と合わせ、本表にまとめる。

「重点的取り組み」 項目	主な事業	定款 区分	達成度評価 (◎-○-△-×の4段階)
① 海岸公園冒険広場の着実な運営と、周辺も含めたより積極的な展開	・指定管理者としての海岸公園冒険広場の着実な運営 ・沿岸部の他の活動・施設とも連携しての賑わい・交流の創出 ・震災の「記憶」の保存・記録・発信や、経験を活かした事業による防災への貢献 ・冒険広場および周辺地域の魅力を引き出す、生き物調査・みどり再生活動 ・震災を伝えるほか、体験活動等も含め、学校の授業等への協力	1. 2. 4. 5. 6. 8.	◎ 再開後2年目となる冒険広場を軸に、周辺交流施設と連携しながら新たな交流事業に取り組んだ。新たな防災企画にも取り組むと共に、アクセス道路工事の関係で団体の受入れには制約のあるなかで小学校等の授業協力なども行うことができた。
② 震災被害の大きかった地域を中心に取り組む遊び場づくり	・宮城野区田子西地区等、被災者の移転先地域での活動（宮城県被災者支援総合交付金事業） ・六郷地域・岩沼市の現地再建地域等での活動（住友商事フォローアッププログラム事業） ・七郷中央公園冒険あそび場等、地域での遊び場・居場所の役割を意識した活動	1. 3. 5. 8.	◎ 冒険広場と連携させながら、仙台市・岩沼市での巡回型の遊び場活動を継続、冒険広場の来園者に地域の魅力を知ってもらうなどの相乗効果も生んだ。
③ のびすく若林と連携した、乳幼児親子への遊びの大切さの発信	・のびすく若林の運営において、「のびすくプレーパーク」等も活用して外遊びの機会を創出しつつ、育ちにとっての遊びの大切さを伝えていく。 ・六郷地区で展開する「出前のびすく」をはじめ、若林区内各所でのあそび場活動とのびすく若林を連携させる。	8.	◎ のびすく若林の運営に参画、乳幼児親子を対象とした外遊びのプログラムを再編して、「のびすくプレーパーク」「あそびのはなし」もスタートした。
④ 地域住民の主体的取り組みの支援と、その実績の整理	・住民発意の遊び場づくり活動の支援 ・冒険あそび場ネット事業から自立して市民運営となった遊び場の支援 ・モデル事例を取り上げ、住民運営の遊び場づくりを支えるノウハウや課題を整理	2. 4. 5. 8.	○ 約6か所で住民主体の取り組み支援を行なっている。ノウハウ・課題の整理は、まだ途中段階。
⑤ 次期子ども・子育て支援計画の策定を見据えた、政策の調査・提言活動	・次期子ども・子育て支援計画の策定プロセスに向けての政策の調査・提言 ・さまざまな切り口からの遊び場の可能性の発信や、新たな遊び場拠点のイメージづくり	7.	◎ 子ども・子育て支援計画のパブリックコメントの機会に意見を提出、計画における遊び環境の視点強化に貢献した。
⑥ 組織運営基盤づくり	事務局体制の強化・人材育成を検討していく。	9.	○ 事務局体制の強化に取り組んでいる。

1. 子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、それを広げる事業

(1) 事業実施にあたっての、連携組織の構築

① 「宮城県被災者支援総合交付金」事業運営委員会

「宮城県被災者支援総合交付金」事業の一環で立ち上げた連携組織について、本年度も継続、意見交換を行うと共に、連携して事業を実施した。

- ・久保田東町内会
- ・田子西中央町内会
- ・（一社）みやぎ連携復興センター
- ・仙台市社会福祉協議会若林事務所
- ・仙台市若林区まちづくり推進課
- ・仙台市若林区中央市民センター
- ・仙台市市民協働推進課

② 海岸公園冒険広場運営委員会

地域に根差した公園運営を目指し、地域関係者を委員にした運営委員会を開催した。

- ・東六郷コミュニティ市民委員会
- ・七郷地区町内会連合会
- ・六郷小学校、七郷小学校
- ・仙台市私立幼稚園連合会若林地区
- ・六郷市民センター・児童館
- ・七郷市民センター・児童館
- ・せんだい3.11 メモリアル交流館
- ・仙台市若林消防署六郷分署
- ・仙台市若林区まちづくり推進課
- ・仙台市若林区公園課
- ・仙台市公園課、百年の杜推進課
- ・海岸公園馬術場

(2) その他、他団体とのネットワーク

- ＊NPO 法人せんだいファミリーサポート・ネットワークとの乳幼児事業における連携
- ＊NPO 法人にじいろクレヨンとの田子西地区の復興支援事業における連携
- ＊宮城県子ども・若者支援会議 参加
- ＊ふるさとと杜再生プロジェクト（仙台市百年の杜推進課事務局） 委員
- ＊海岸公園各地区指定管理者による「海岸公園運営協議会」（仙台市公園緑地協会事務局）
- ＊仙台東部エリア交流施設連絡協議会（荒井タウンマネジメント事務局）
- ＊わたしのふるさとプロジェクト（六郷市民センター事務局）参加

上記の継続的な取り組みの他、事業 8. の各事業実施にあたり、地域団体、NPO、児童館、市民センター、小学校等、多くの団体と連携を行なった。

2. 冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業

(1) 宮城県内外の冒険遊び場活動についての情報収集・発信

理事会を中心とした従来からの仙台市周辺の冒険遊び場活動についての情報交換に加え、遊び場活動の支援（事業 4・事業 5）等も通じて、被災地域を中心にひろがりを見せる県内外の遊び場づくり活動の情報を収集した。本年度は、県南地域で始まった遊び場・居場所づくりの情報交換会にも参加した。

収集した冒険遊び場情報は、海岸公園冒険広場でも来園者に紹介している。

(2) ホームページ等での発信

facebook ページやブログとも連携させながら情報発信を行なっている。

(3) 「冒険あそび場ネットだより 2018」の発行

2019 年 7 月、前年度の活動をとりまとめ発行した。

(4) 取材・報道等への協力

事業 8. を中心に、新聞や情報誌等のメディアの取材に協力した。 20 件

3. 地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業

若林区六郷東部地区において、遊び場活動とも並行しながら、地域の高齢者等から子ども時代の地域における遊び経験の聞き取りを継続している。

2019年度は、事業8. (2)⑤「東六郷で遊ぼう！」において、「かつてこの地域で子どもたちが遊んでいたことの中から、今でもできるかもしれないことを見つけ、やってみよう」と、実践にもつなげたところ、地域の人たちも考えていた以上に子どもたちが楽しめるシーンが生まれる結果となった。

かつての豊かな遊び経験の話には、「今では、もうできない」と思われているものも多いが、その中にも、「実は今でもできること」「できる環境をつくれればよいこと」が数多くあることを見出し、遊び環境づくりの提言にもつなげていきたい。

4. 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業

冒険遊び場づくりへの相談のほか、遊び場づくり団体、その他 NPO、行政、学校、研究者等から寄せられる各種相談に対応、必要に応じ具体的な支援も行なった。

- ・遊び場づくりへの協力依頼 →事業5. (2)「宮城県を中心とした遊び場活動の支援」
- ・遊び場づくりの相談 柴田町太陽の村「冒険遊び場推進協議会」 ほか
- ・講師派遣
6/22 NPO 法人新青樹（愛知県） プレーリーダー研修
8/28 若林若葉町内会（若林区） 環境出前講座
9/8 大和町教育委員会 遊び場学習会（ジュニアリーダー研修）
12/6 二中学区児童健全育成連絡協議会（青葉区）講演会
- ・研究者・学生からのヒアリングへの対応
- ・視察・見学受入れ等 19件
- ・小学校の授業協力
仙台市立七郷小学校 6年生総合学習 7/18(木) 海岸公園冒険広場で受入
2/10(月)「復興の担い手のみなさんに学ぶ」出前事業講師

5. 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業

(1) 若林区を中心とした、プレーカーを活用しての遊び場の運営

指定管理者として運営する海岸公園冒険広場と連携する形で、若林区六郷・七郷地域を中心に、プレーカーを活用しての遊び場を運営した。（→事業8. 参照）

(2) 宮城県を中心とした遊び場活動の支援

県内各地で始まっている遊び場づくりの取り組みを支援するため、プレーリーダー等を派遣している。また、事業8. で実施してきている巡回型の遊び場についても、「地域の運営主体を支援する」形を目指し、下記⑤～⑩を支援の形で取り組んだ。

<事業8. 以外の遊び場活動支援> ①・②

- ①ふるじろプレーパークの会（若林区）「ふるじろプレーパーク」 7/25 7/26 2日間 各1人派遣
- ②大和町教育委員会 12/1(日)「遊び場どうじょ！」（吉田教育ふれあいセンターにて）開催支援
9/8(日)実施のジュニアリーダー・子育てサポーター対象の研修も講師として協力。
開催実施内容の検討段階からの協力を行なった。 各2人 のべ4人派遣

＜事業8. での遊び場活動支援＞ ③～⑦ （→詳細は、事業8. 参照）

- ③乳幼児室内あそび場ちびひろ「ちびひろ」…2017年4月～新体制での運営を支援
- ④片平地区まちづくり会 のりっば部会「のりっばで遊ぼう」…運営支援
- ⑤田子西こだま町内会「お茶のこさいさい」…2016年7月～町内会主催の活動を支援
- ⑥田子西中央町内会「外で遊ぼう！」…2017年4月～町内会主催の活動を支援
- ⑦いわぬまあそび場の会・ニコニコキッズ「里の杜あそび場」…運営支援

(3) 杜々かんきょうレスキュー隊環境学習プログラム実践

平成 21 年度に杜の都の市民環境教育・学習推進会議（FEEL Sendai）環境学習プログラム提案。幼児から対象とするプログラム「いろ色発見隊～季節のカメラマン」を9ヶ所で実践した。

実施団体	実施日	実施場所	対 象
マザーズサンピア保育園	10/10(木)	海岸公園冒険広場	5歳児 13人
鶴ヶ谷保育所	10/29(火)	鶴ヶ谷7丁目南公園	4・5歳児 25人
能仁保児園	10/30(水)	新寺4丁目公園	5歳児 18人
南小泉保育所	11/6(水)	遠見塚古墳	5歳児 18人
桜ヶ丘保育所	11/7(木)	保育所内裏庭	4・5歳児 28人
蒲町保育所	11/8(金)	七郷中央公園	5歳児 19人
熊ヶ根保育所	11/13(水)	旧・熊ヶ根中跡地	3・5歳児 35人
黒松保育所	11/14(木)	黒松三角公園	5歳児 21人
ロリポップクラブ マザリーズ電力ビル園	11/18(月)	西公園	4・5歳児 17人

本年度は、仙台市環境局による「仙台市環境出前講座ネットワーク」の環境出前講座についても、依頼を受けて講師派遣を行った。(8/28 若林区若林若葉町内会「震災とまちづくりー地域の役割ー」参加者:32名)

6. プレーリーダーの養成に係る事業

(1) 講座・研修等の実施

運営2年目となる海岸公園冒険広場のスタッフ研修を中心に、下記講座・研修を実施した。併せて、遊び場の実践も含め、遊びに関わる大人の育成に努めた。

実施日	内 容	講 師	実施枠組等	対 象
2019/6/11	危機的状況での遊び場づくりとその意義 ～ドイツと日本の取り組みから～	教育アクション「遊び文化」(ドイツ)ミハエラ・ディートリッヒ氏 日本冒険遊び場づくり協会 嶋村仁志氏	日本冒険遊び場づくり協会と共催(同協会受託:文部科学省日独青少年指導者セミナー事業)	スタッフ ボランティア 一般
6/12	シェイクアウト訓練 防災あずまや設営	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
6/25	個人情報保護について	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
7/16	危険管理研修(テキスト「現場から学ぶ危険管理」)	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
8/27	子育ての現状と支援	せんだいファミリーサポート・ネットワーク 代表理事 伊藤千佐子氏	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
8/27	バリアフリー/障害者への合理的配慮について	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
11/2	防災あずまや設営訓練	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ 来園者
11/26	冒険広場遊具等の安全確認について (新チェック表にもとづいて)	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
2020/1/21	「ふわふわどーむ」利用者への注意喚起について	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ

3/24	新型コロナウイルス対策の動向について	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
4/21	新型コロナウイルスを学び、 対策を考える	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ

(2) インターン生の受入れ

- ・SOMPO 環境財団「CSO ラーニング」長期インターン生 1 名（8 か月 計 102 時間）
- ・学生（青森在住）個人インターン生 1 名（7 日間）

(3) 仙台市職員研修の受入れ

- ・せんだい・みやぎ NPO センター「仙台市協働人材育成事業」研修生 1 名（3 日間）

7. 子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業

◎子ども・子育て支援計画の新計画策定プロセスにおける施策提言。

2019 年度は、こども子育て支援法に基づく子ども・子育て支援計画（5 年ごと）の策定期にあたり、年末から始まった各自治体のパブリックコメントを活用し施策提言を行なった。

また、計画策定状況について各地の活動者等に情報提供を行い意見の提出を促した。その結果、宮城県・仙台市共に遊び・遊び環境づくり政策について、計画上の位置づけが高まるという成果を得られた。

- ・宮城県「みやぎ子ども・子育て幸福計画(令和 2 年度～令和 6 年度)」

パブリックコメントに付された同計画の中間案では、遊びに関する記述がほとんど見られなかったが、宮城県議会が制定した「子ども子育て県民条例」や、県が取り組む「ルルブル運動」や分野別計画で遊びの重要性等が記述・記載されている事を提示した。その結果、居場所づくり、児童館、幼児教育、体力向上、まちづくり等複数の箇所“遊び・遊び場”の重要性について各所に記述・記載された。

- ・仙台市「すこやか子育てプラン 2020」

当会の活動を通してこれまでの実践で見えてきたことや、仙台市が策定する諸計画でも遊びの大切さが記述されていることなどを示した。ところ、「基本的な視点」とそれを受けた「主な取り組み」の中に「遊びの環境の充実」が明記されることとなった。また、具体的な施策として「遊びの環境に関する調査・研究」「協働によるプレーパークの運営」などが新たに記述されるようになった。

8. 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業

(1) 海岸公園冒険広場の運営 【仙台市指定管理業務】

週 6 日開園（毎週火曜日休園） 来園者数：約 15.6 万人(2019.4～2020.3)

東日本大震災後以降一年を通して開園する最初の年となった令和元年度は、11 月まではアクセス路が制限されて大回りが必要な状況でもあり、同期の来園者数は前年度より少なくはなったものの、東部復興道路開通を受け 12 月以降は前年比増に転じ、震災前も上回る来園者数となった。

また開通前についても、デイキャンプ場利用者数を見ると、台風 19 号等の影響を大きく受けた 10 月までは前年より 5 割近く利用者を伸ばすなど、高いニーズと利用者からの評価を感じている。

園内では、冒険遊び場を中心に、さまざまな道具・材料等を準備しながら、四季それぞれの公園の魅力を見出し、公園の遊び（活用）の在り方など年間を通して伝えていった。特に、来園者が少なくなる冬季は広報紙や SNS も含めた web サイトを重視し、寒い時期こそその公園の楽しみ方・利活用等の積極的な働きかけを行い伝えていった。

また、園内だけでなく公園周辺部でも広く自主事業を展開した。本年度は、海岸公園指定管理者間で共同実施した「馬に乗って荒浜を知る」企画、沿岸部交流施設間で連携した「海手めぐりキャンペーン」なども新規実施し、被災の影響がまだ残る沿岸地域全体の魅力発信・交流促進に寄与することができた。

再開後の重要な役割である震災伝承・防災についても、園内の痕跡保存も含めた震災を伝えていく活動、「避難の丘」の防災あそびまの設営訓練・模擬展示を行なった他、若林消防署共催の防災イベントを初企画するなど新たな取り組みも行なった。（※消防署共催イベントは、台風 19 号の影響で中止となった。）

新型コロナウイルス感染症対策においては、注意喚起・消毒・利用休止等の対策の他、密集地の隣接区画をひろびろ遊べる場にするなど、ソフト面での工夫による対応も行なっている。

(2) 冒険広場周辺地域および岩沼市で開催する遊び場

海岸公園冒険広場再開するのに合わせ、いくつかの遊び場について再編・運営形態の変更を行なったが、引き続き、冒険広場からやや内陸部に入った若林区六郷・七郷地域および宮城野区田子西地区を中心に複数個所で「遊び場づくり」活動を展開した。

震災前から冒険広場が果たしていた「あそびを通して子どもの育ちを支える」役割と、東日本大震災発生後「心のケア」の役割を担うという当初の目的に加え、屋外の利点を活かして人のつながり～コミュニティづくりの場としての役割もねらいとし活動している。

昨年度に引き続き、長期的な活動の継続を意識し、「地域の運営主体を支援する」形での取り組みにも力を入れている。（※あそび場名称前に「支援」と記載）

なお以下の巡回型遊び場については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、3 月以降いずれも休止することとなった。

<若林区：七郷地域の遊び場> ①～③

七郷地域で実施する遊び場は、「荒井公共土地区画整理地区」内にある。同地区は、隣接する荒井東・荒井西・荒井南地区と共に、集団移転先も割り当てられた区画整理区域である。復興公営住宅も多く立地すると共に、地下鉄東西線開通などにより新市街地もひろがり住民は増加、2020 年 4 月には学区が再編され新たに荒井小学校が開校した。新住民同士、新住民と旧住民、各校の児童同士など多様な交流の場が期待される地域である。

①七郷中央公園冒険あそび場（七郷中央公園）毎週水曜 計 37 回 のべ 2430 人【子どものたより場基金】

伊在/荒井/蒲町地区の境界にある「七郷中央公園」を拠点に、より自由度の高い冒険遊び場活動を実施した。週 1 回の継続的な遊び場とすることで、乳幼児親子から学童・中高生まで自由に遊べ、ありのままにいられる居場所となる場づくりを目指した。

夏以降は、公園内仮設住宅跡地の多目的広場が復旧し一般開放されたことにより、さらに自由度の高い遊び場となった。開始後丸 2 年となり、世代を超えた遊び場・居場所としてさらに定着してきていると感じている。「支援者と支援対象」といった役割を越えた地域に暮らす「人と人」としてお互いを気かけ合うような関係も生まれており、地域の「たよれる場」としての役割を果たしていくことが期待されている。

② 下荒井公会堂であそび（下荒井公会堂）月 2 回程度 月曜日 計 17 回 87 人【宮城県被災者支援総合交付金事業】

荒井東復興公営住宅に最も近い既存町内会＝下荒井町内会の集会所での、乳幼児親子対象の遊び場。今年度も、新市街地に被災して移転してきた家族、被災理由でなく移転してきた家族、既存市街地に暮らす家族、それぞれが交流する場になった。隣接町内会からは、「地域の中で子育て世代が集える場をつくりたいと思っている」と相談を受けた。

③ <<支援>> 乳幼児室内あそび「ちびひろ」（上荒井公会堂）

町内会の集会所を活動場所とした、旧住民と新住民の交流を生むきっかけともなる乳幼児親子の遊び場。直接の遊び場開催支援ではなく、運営のサポート中心の支援となった。

母親たちで出来る運営形を模索し、2019 年度 4 月以降は長期休み中の木曜日開催。後半には運営課題や開催ニーズなどの確認を行い、当会は月 1 回の開催協力を行い、長期休み中は住民のみで開催するという方向性を確認した。

<若林区：六郷地域の遊び場> ④～⑥

若林区六郷東部地区（旧東六郷小学区周辺）で被災した人の多くは、仮設住宅の段階から、同じ六郷地域のやや内陸の場所（六郷小学校学区周辺）に仮住まいを設けた。その後、復興公営住宅が完成し、個別再建も含め、この周辺に移り住んだ人は多い。2017年3月には、東六郷小学校が六郷小学校に統合されるなど、子どもたちを取り巻く環境も新たな段階に入った。

こうしたなか、移転先の地区での新たな関係づくりと、人口減少の激しい現地再建地域のコミュニティ活性化などを視野に3ヶ所で遊び場活動を実施した。

④ 六郷あそび場（六郷小学校校庭） 8/8・9・22、12/27、1/7 計5回 のべ68人

【住友商事東日本再生フォローアッププログラム】

前年度に海岸公園冒険広場の再開を受けて長期休み中の開催となったが、毎週実施していた頃から遊びに来る子たちから今でも大きな期待を受けながら活動を継続している。

2017年春の統廃合によって学区が拡大した六郷小児童に旧東六郷小校区にも関心を持ってもらえるよう、⑦「東六郷で遊ぼう」を開催し、子どもたちをつないでいった。

⑤ 東六郷で遊ぼう（井土地区周辺） 計4回 のべ60人 【住友商事東日本再生フォローアッププログラム】

大きな人口減少がみられる現地再建地域において、地域の大人から聞いた子どもの頃の思い出を聞きながら、今も残る子どもの遊ぶ環境の魅力を再発見し伝えていく機会とすることも目指した。

今年度は、海岸公園冒険広場のある井土地区を中心に、地域全体に広げて四季を楽しんだ。

⑥ 久保田東あそび場（久保田東集会所隣接の公園） 計9回 のべ125人 【宮城県被災者支援総合交付金事業】

防災集団移転促進事業による「六郷地区」に設立された久保田東町内会の集会所に隣接する公園での遊び場を開催。防災集団移転促進事業で地区に暮らすようになった人と、空き区画の一般販売枠で居を構えた家庭（多くは子育て世帯）との間を取り持つような役割を果たすことを意識して取り組んだ。

遊び場に集まることで、保護者や近所の人たちが直接言葉を交わすような機会は着実に増えてきている。

<仙台市宮城野区：田子西地域の遊び場> ⑦ ⑧

防災集団移転促進事業の移転先になっている田子西地区・同隣接地区の2ヶ所で活動を継続開催した。いずれも、町内会の交流を支援する形で、遊び場・交流サロン活動にNPO法人にじいろクレヨン(石巻)と連携して取り組んだ。なお、田子西三丁目町内会の活動は行事協力活動に移行した。

⑦ <<支援>>お茶の子さいさい（田子西第二復興公営住宅集会所）<主催：田子西こだま町内会> 計9回 325人

【宮城県被災者支援総合交付金事業】

復興公営住宅は集団移転地区と比べるとかなり広域の場所から住民が集まっており、世代を超えて住民同士が知り合える場をつくりたいという町内会からの要望で2016年7月より始まった活動。

高齢者が中心に集まる「交流サロン活動」を実施する集会所内と、子どもが中心に集まって遊ぶ広場の間で、できるだけ相互の行き来が生まれるよう配慮しながら活動している。

こうした配慮は奏功し、世代を超えての関係性が生まれている。この関係は日常にもつながっており、遊び場で遊んでいた子どもが大人の花壇整備に加わる、といった動きにもつながっている。イベントを通してこうした世代間の関わりを深化させようという取り組みもなされた。

⑧ <<支援>>外で遊ぼう（田子西二丁目公園）<主催：田子西中央町内会> 計8回 のべ350人

【宮城県被災者支援総合交付金事業】

田子西中央町内会は、被災し移転してきた住民、震災とは関係なく転居してきた住民、従前からの住民と多様な背景の方で構成されている。同町内会からの相談で始まった、属性や世代を超えて交流できる機会づくりを目指した遊び場。

子どもたちへの定着は進んでおり、継続的にくる子の中には「私の遊び場だ」という意識で、準備から片づけ、初参加の親子への働きかけまでする子も出てきている。

若い親世代への働きかけが課題となっており、乳幼児親子向けの企画にも力を入れていて、参加親子と小学生との交流も生まれている。

＜その他仙台市内の遊び場＞ ⑨ ⑩

⑨ 若林小学校あそび場（若林区：若林小学校校庭） 月1回 計7回 のべ501人

若林小学校・若林区中央市民センター・若林市民センターとの協働事業として毎月1回の開催を継続して8年目になった。小学校の授業時間増加等の影響で、放課後の遊び場の開催に難しさを生じてきているが、可能な形を模索しながら続けている。数年継続していた「おやじの会」の行事への協力は、当日の参加協力はできなかったが事前にノウハウをアドバイスし当日はメンバーが実施する形で行うことができた。

⑩ <<支援>>片平地区「のりっぱであそぼう」（青葉区：まちなか農園藤坂隣接の空地）

2015年に「新しい東北先導モデル事業」としてスタートした取り組みが、翌年から近隣住民等で組織される「のりっぱ部会」遊び場プロジェクトチームの取り組みとして再スタートしており、引き続き支援している。この取り組みには地元の中高生が主体となってまちづくりに取り組んでいる組織「片平子どもまちづくり隊」も参画しており、子どもが参加できるワークショップの企画・運営にもあたった。

東北福祉大サークル「追廻セツルメント」による継続的な活動も2年目になっており、引き続き学生の支援にも力を入れている。

＜岩沼市の遊び場＞ ⑪ ⑫

⑪ 楽農村で遊ぼう（岩沼市：朝どり+楽農村）計5回 のべ166人 【住友商事東日本再生フォローアッププログラム】

岩沼市玉浦地区の現地再建区域の農家が運営する市民農園の一角で「農地の環境を活かした遊び場」。公園とはまた違う自由な空間の魅力もあり、都市部の親子の参加も多い。引き続き、「朝どり+楽農村」と共催の形で実施している。他では見られない、早朝開催の「早起き遊び場」も昨年度に引き続き実施した。

⑫ <<支援>>里の杜あそび場（岩沼市：里の杜中央公園）

岩沼市の被災者支援事業として2013年に始まった「里の杜あそび場」を引き継いだ、市民による「いわぬまあそび場の会」、学生ボランティア団体「にこにこキッズ」の主催事業の遊び場。

プレーリーダーの派遣は終了したが、引き続き活動の継続を支援している。

(3)他団体が実施する企画への開催支援等 【住友商事東日本再生フォローアッププログラムほか】

前年度に引き続き、海岸公園冒険広場や遊び場活動実施地域の町内会や、市民センター等の行事等への協力を行なった。

- ① 七郷市民センター・七郷小おやづの会「七郷防災キャンプ」 7/13(土)
- ② 若林小おやじっ子クラブ「学校に泊まろう」 7/27-28（事前協力）
- ③ 上荒井町内会「上荒井夏まつり」 8/3(土)
- ④ わたしのふるさとプロジェクト「六郷東部夏祭り」 8/17(土)
- ⑤ せんだい3.11 メモリアル交流館「メモ館縁日」 8/9(金)
- ⑥ 六郷東部まちづくり部会「六郷東部ふるさと交流祭」 10/20(日)
- ⑦ わたしのふるさとプロジェクト「第3回 鎮魂の花火」 1/25(土)

(4)遊び場づくりと連携する大人も集まれる「縁側倶楽部」等の支援活動の実施

【宮城県被災者支援総合交付金事業】

遊び場と連携した「ものづくり+お茶っこのみ（交流サロン）」を、復興公営住宅や集団移転先の集会所で継続的に実施し、大人が集うきっかけづくりを行なった。

① 荒井東復興公営住宅集会所「荒井東縁側倶楽部」 9・11・12・2月 計4回 のべ39人

遊び場活動は2018年で終了したが、交流サロンについては季節に応じた企画を継続している。参加者の声も聞きながらテーマを決め企画に取り入れた。

今年度も協力者として、臨床心理士・カウンセラーも参加して住民の心のケアを行っている。

②久保田東町内会集会所「久保田東縁側倶楽部」 原則第4月曜 計9回 のべ203人

防災集団移転促進事業による移転先の町内会集会所での交流サロンだが、町内会以外の人でも参加できることとなっており、近隣の復興公営住宅や、六郷東部の現地再建地域の住民も集まる交流の場になっている。

2019年度は、前年度に引き続き参加者の増加傾向が見られた。近隣の復興公営住宅や現地再建地域の住民も含め声をかけ合って集まって来る形も定着している。当初は、「もともと仲のよい人同士での声かけ」が中心だったが、「近所の人々が声をかけてくれたから…」という、特別に親しい人同士でなくても誘っている形増えてきた。より近隣同士の交流を促す効果も表れている。

(5)沿岸部の環境調査 8/25(日) 10/27(日) 2/2(日)

様々な復旧工事の進む仙台市沿岸部において、生き物の回復状況を探り、その様子から被災地域の「再生」のあり方も考えていくことを目指し、季節ごとに海岸公園冒険広場や貞山堀など冒険広場の周辺を中心とした沿岸部の生き物を調査した。

その他2019年度は、福島大・永幡教授と共同研究による「生き物の音の収集」を行った。また、震災で復活し植物界の“災害遺産”ともいわれる「ミズアオイ」について、日本ビオトープ協会 平塚氏による生息調査・普及啓発への協力も行っている。

井土メダカの復活活動「ひがろくメダカプロジェクト」と連携したメダカ池設置の試行も、地元の住民と相談・協力で進めた。

(6)「ふるさとの杜再生プロジェクト」沿岸部・みどりの再生活動に参画

「ふるさとの杜再生プロジェクト」は、仙台市・市民・NPO・企業等の力を結集し、海岸防災林をはじめとした東部沿岸地域のみどりの再生を図るプロジェクト。市民参加型で行っている。

前年度に再開した海岸公園冒険広場でも、多くの植樹・育樹会を協働で実施した。

- ① ウバメガシ植樹 6/25(火)
- ② 「ふるさとの杜再生プロジェクト」井土地区育樹会 7/20(日) 73人
- ③ 福島県只見町朝日小・仙台市立六郷小交流事業「海洋交流学习の旅」で育樹活動 7/24(水) 20人
- ④ 神戸親和女子大学 アジサイの植樹 8/5(月) 40人
- ⑤ 「ひがろく桜プロジェクト」 3/4(水) 30人

大津波にも耐えて生き残っていた旧東六郷小校庭の桜の樹勢が落ちたことを受け、その命をつなぐと、埼玉県の造園家の手で接ぎ木から育てられた桜苗が4年越しで仙台に里帰りした。東六郷コミュニティ広場整備を前に、仙台農業園芸センターの協力で市民農園敷地内に21本の桜の仮植を行った。

(7)仙台平野の居久根再生「大内さんちの居久根プロジェクト」

津波で被災した若林区六郷東部地区で、広く人々が集える新しいかたちの「居久根の再生」に向けて取り組んでいる。本年度も避難道路沿いの花畑の整備や桜の植樹を行なった。

(8)「のびすく若林」の運営への参画

2017年秋・開館の親子ふれあいプラザ「のびすく若林」指定管理者の構成団体として運営。

週3日プレーリーダーを配置すると共に、隣接する若林区ふるさと広場を活用した外遊びの企画・実施をした。2019年5月からスタートした「のびすくプレーパーク」は、予約制でなく5時間ある時間内であれば自由に参加できる形で開催し好評を得た。

1月からは、遊びを楽しむコツを保護者に伝える「あそびのはなし」講座がプレーリーダー企画でスタートした。

2018年度に地域連携事業でスタートした「出前のびすく 子育てサロン」は若林区六郷地区2ヶ所で継続開催している。

①出前のびすく久保田東子育てサロン（久保田東集会所） 6/19(水) 9/25(水) 12/17(火) 3回 計36人
 (2)の遊び場も展開している集会所でのサロン。乳幼児を持つ若い世代が地域に馴染み根付くことを願い、ゆるやかな出会いの場づくりをした。安心して子育てができる世代間交流も視野に入れた内容で実施。

②出前のびすく六郷子育てサロン（六郷市民センター） 7/12(金) 11/29(金) ※六郷市民センターと共催

震災もあり自主的な子育てグループがなくなり、子育て支援の必要が特に求められている六郷地域において、六郷市民センターと共催で年3回のサロンを行なうこととなった。それぞれの強みを活かした企画・実施のなかで、地域での子育てをすすめていく。

(9)台風19号 水害被災地域への支援：丸森町での遊び場 【日本財団「令和元年豪雨・台風被害に関わる支援活動」】

2019年10月に襲来した台風19号により大きな浸水被害のあった丸森町において、子どもが遊べる機会と仮設住宅等も含めた交流の場をつくろうと、丸森小学校と相談し校庭・体育館を開放する遊び場活動を2月にスタートさせた。一般社団法人プレーワーカーズ（名取市）、NPO法人こどもムゲン感ばにー（石巻市）との連携事業として同月2回実施した。

※3月以降は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により活動を休止している。

「事業8.」各取り組みの財源別整理

	海岸公園冒険広場 指定管理業務	こどものたよりば 基金	宮城県 被災者支援 総合交付金	住友商事 フォローアップ プログラム	その他
◎ 海岸公園冒険広場	◎				
① 七郷中央公園		○(8月～)			○
② 下荒井公会堂			◎		
③ 上荒井公会堂					◎
④ 六郷				◎	
⑤ 東六郷				◎	
⑥ 久保田東			◎		
⑦ 田子西第二復興公営住宅			◎		
⑧ 田子西二丁目公園			◎		
⑨ 若林小学校					◎
⑩ 片平地区					◎
⑪ 楽農村(岩沼)				◎	
⑫ 里の杜(岩沼)					◎

9. 組織運営について

2016年度（2017年5月）に策定した中期計画で具体的な取り組みとして挙げた「⑩ 調査研究・政策提言や団体マネジメント力をつけるため、事務局体制を強化する。」に基づき、事務局体制の強化について検討を行なった。長く中核を担っていた主スタッフが退任することになったが、新たなスタッフを配置して、引き続き事務局体制の充実・強化を図った。